

令和7年度石巻市在宅医療・介護連携推進事業

第2回多職種連携つなぐカフェ（ご報告）

・開催日時：令和7年12月10日（水） 14時00分～15時30分

・会場：医療法人啓仁会 石巻ロイヤル病院 4階 会議室

・テーマ：「歩き方などから本人に合った歩行補助具について学ぼう」

・講師：医療法人啓仁会 石巻ロイヤル病院

リハビリテーション部 統括主任 理学療法士 及川 竜太 氏

主任 理学療法士 井上 航史 氏

副主任 理学療法士 鈴木 大 氏

・参加者数：33名

（事業所別内訳（人数））

居宅介護支援事業所	17
地域包括支援センター	15
小規模多機能型居宅介護	1
合計	33

（職種別内訳（人数））

看護師	4
主任ケアマネジャー	5
ケアマネジャー	19
社会福祉士	5
合計	33

・当日の様子（写真）

【会場の様子】

石巻ロイヤル病院様、全面協力の基、今回の多職種連携つなぐカフェを開催いたしました。多職種連携つなぐカフェでは、初めてとなる病院内での開催となり、石巻ロイヤル病院 リハビリテーション部の講師3名以外にもグループに1名ずつリハビリ専門職を配置していただき、計7名に御対応いただきました。

また、会場後方には、歩行補助具（杖、歩行器等）を配置いただき、実際に触れながら話し合う時間を設けていただきました。



【講話①】

統括主任 理学療法士 及川 竜太 氏



及川先生より、入院リハビリテーションの主な対象疾患等について説明をいただきました。

また、医療と介護の連携を前提としていることから、在院日数の短縮により機能回復やADLの改善の余地を残して退院する事例もある。そのため、退院後の身体機能や生活機能の変化に応じた「歩行補助具」の再検討が必要とのお話しをいただきました。

【講義②】

副主任 理学療法士 鈴木 大 氏



鈴木先生からは、各種歩行補助具についての特徴や選定方法について説明がありました。

歩行の安定を図る上で、支持基底面（身体を支えるための床と接地している部分によって囲まれた床面積）が重要となる。歩行補助具を使用することで、この支持基底面が広がり、歩行が安定し転倒リスクを減らすことが可能。

講話のなかに、実際に歩行補助具を体験する時間を設けていただきました。各グループには石巻ロイヤル病院のリハビリ専門職が配置されており、質疑応答しながら体験する時間となり、大変盛り上がりました。

・歩行補助具体験の様子



【グループワーク①】

主任 理学療法士 井上 航史 氏



井上先生より、「在宅復帰後の変化に合わせた歩行補助具を選定した事例」と題して、グループにてケース検討をする時間を設けていただきました。自宅退院後、動画で実際の動作を確認し、グループにてどの歩行補助具の使用が望ましいか検討しました。

最後には、井上先生より実際にケースにて提供した歩行補助具の回答と理由を話していただきました。



【グループワーク②】

事務局（介護福祉課）がグループワークを進行しました。

グループワークの内容は、「業務を行う中での歩行補助具に関する困りごと」と題し、例を挙げると①歩行補助具を利用者に勧める際、どのようなポイントを確認した方がいいかわからない。②利用者の身体機能が向上しているが使用している歩行補助具が病院退院時のままとなっており、どうしていいかわからない。等といった内容を話し合っていただきました。カフェの言う名の研修会であるため、ざっくばらんに話していただく場とさせていただきました。こちらのグループワークもグループに配置されているリハビリ専門職と参加者が積極的に意見交換する場面が多くみられました。





グループワークのなかで出た内容としては、「今まで使用していた同じものを続けて使いたい」、「デザインや色へのこだわりが強く変更することが難しい」などといった内容が出ておりました（※別紙参照）。

【グループワークのまとめ】

最後に介護福祉課より、まとめとして本市で実施している「地域リハビリテーション活動支援事業」、「短期集中機能訓練訪問指導事業」について説明させていただきました。

リハビリ専門職は身体機能、特に動作に着目して指導・助言をする専門家です。当たり前ですが、退院時の歩行能力が入院前の状態に回復する患者ばかりではありません。そのため、動作を適切に評価ができるリハビリ専門職に頼っていただきたいと思います。今回、石巻ロイヤル病院様もこの考え方の基、今回の研修会を引き受けさせていただきました。また、本市と各リハビリ事業所が連携をとるなかで、各リハビリ事業所のリハビリ専門職もケアマネジャー等の他職種との連携を望んでおります。普段の業務で忙しく、大変かもしれませんが、是非、本市で行っているリハビリ関連事業をご活用いただければ幸いです。

【おわりに】

今回、今までの多職種連携つなぐカフェではないような体験やグループワークに富んだ研修会となりました。

グループワークや体験の場面では、かなり積極的に意見交換が行われている大変有意義な時間になったと思われます。今後もこのような研修会を企画していければと思います。

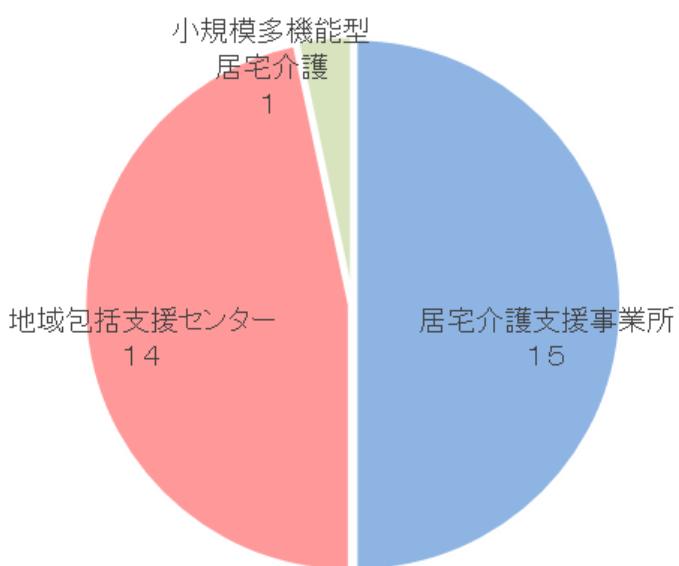
最後に、今回の研修会で講話・グループワークを御対応いただいた3名の先生方、本研修会の企画及び調整を行っていただいたリハビリテーション部 室長、副室長をはじめとする先生方、会場の提供から講師対応等ご協力いただいた石巻ロイヤル病院様に感謝申し上げます。

参加者アンケート 集計結果

参加者 33名 回答者 30名 (回答率 90.9%)

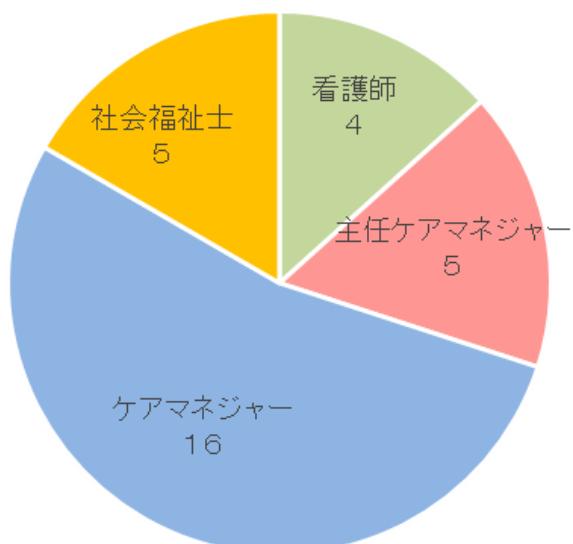
1. 所属

所属機関(人数)



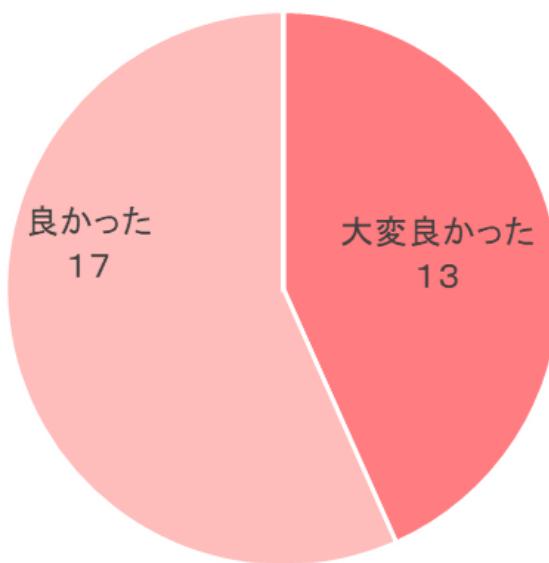
2. 職種

職種(人数)



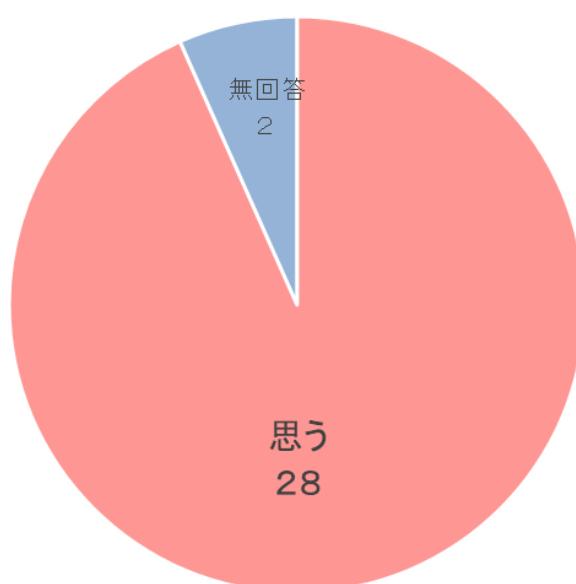
3. 研修（交流）会の感想

参加した感想（人数）



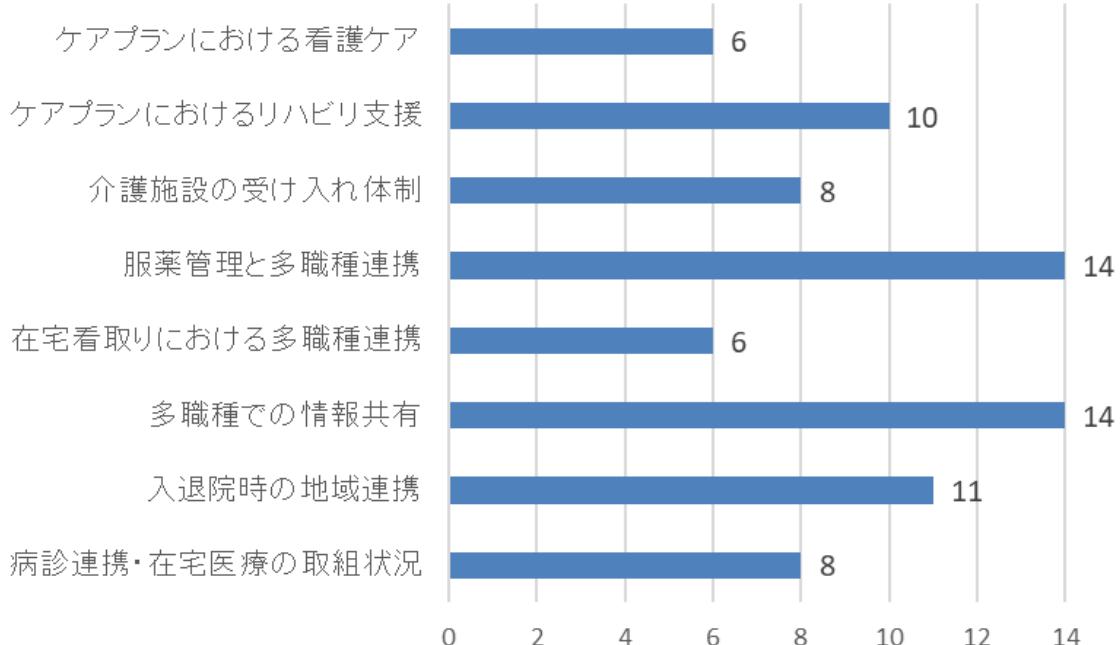
4. 石巻地域における「交流」メインの研修会は必要だと思いますか

交流をメインとした研修会について
必要と思うか(人数)



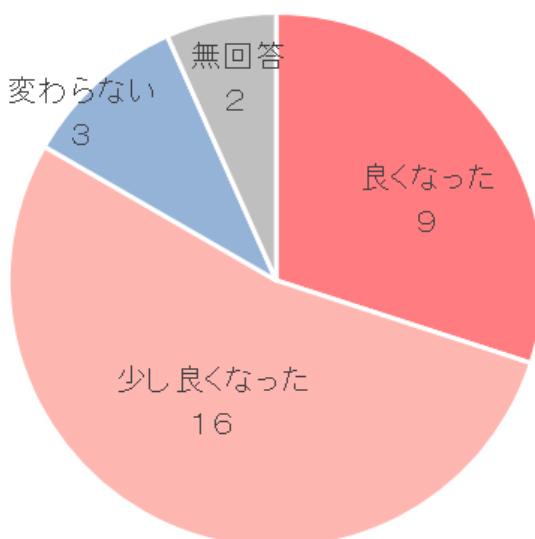
5. 今後参加してみたい研修内容

今後、参加してみたい研修会の内容(人数)



6. 以前より多職種との連携がスムーズになったか

以前より多職種連携が
スムーズになったか(人数)



7. 研修内容と運営に関する感想（自由記述）

- ・本日は貴重な学びの機会をいただき、ありがとうございました
- ・今後の福祉用具の選定の参考になりました。
- ・福祉用具の講話を何度か聞いています。いつも福祉用具の営業感が強く、少し残念に思っていた。が、今回は現場の職員と利用者のリアルな話でとてもとても為になりました。また、このような内容ならば開催して欲しいです。ありがとうございました。
- ・とても良い研修会でした。
- ・今後もこの様な研修があるといいです。
- ・福祉用具選定の際に気にすることを確認できてよかったです
- ・参考になりました。今後に活かしたいと思います
- ・リハビリ専門職の方々のお力を借りる必要性を強く感じられました。
- ・大変勉強になりました、ありがとうございます。
- ・次回も参加したいです。
- ・提案ですが、相談できるリハ職、場所ができるることを期待します。
- ・今後の参考になりました。
- ・担当リハビリ職員の方が丁寧に対応頂き内容に深みがあった
- ・大変わかりやすく、勉強になる講話でした。是非また参加したいと思います。ありがとうございました。
- ・その人にあった福祉用具の選定は専門職と連携して安全、安心に過ごせるような環境作りが必要だと再確認しました。
- ・専門性の話で勉強になりました。ありがとうございました😊
- ・事例を通して歩行補助具の選定の根拠や生活ニーズが大切だと理解できた。
- ・福祉用具の選定について、組み合わせは本人の生活スタイルや性格を考慮して、専門職の・視点であれば固定的ではないことがわかりました。研修に参加させて頂きありがとうございました。
- ・内容はとても良かったが、時間的に駆け足だったと感じた。もう少しゆっくりグループワークでお話をしたいと思った。
- ・今回の研修、利用者様に情報提供する際とても参考になると思いました。
- ・初めて参加しましたが、顔の見える研修で今後の業務にも参考になりました。グループワークは必要ですが、グループ発表はプレッシャーを感じて楽しめないこともあります。
- ・お世話様でした。
- ・参加出来て良かったです。
- ・グループ研修はいつも苦手です。なんとかならないかな。
- ・経験が浅く連携に難しさを感じています。今日は多職種・他事業所の方とお話できる機会となり、良かったです。
- ・ありがとうございました。これから福祉用具について相談させて頂きます。
- ・とてもわかりやすくよかったです。普段からの悩みや疑問が解決できてよかったです。